

十勝岳の火山活動解説資料（平成24年3月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

地震活動、噴煙活動ともに概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。2006年からみられている62-2火口直下浅部の膨張を示す地殻変動は現在も続いており、火山活動の推移に注意が必要です。

平成20年12月16日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙などの表面現象の状況（図1-①～④、図5）

62-2火口の噴煙の高さは火口縁上200m以下で、噴煙活動は低調に経過しました。大正火口の噴煙の高さは火口上200m以下で、2010年5月頃から噴煙量がやや多い状態が続いています。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-⑤～⑧、図2）

火山性地震は少なく、地震活動は低調に経過しました。震源はグラウンド火口周辺及び旧噴火口付近の浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図3～4）

GPS連続観測では、前十勝観測点において62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が認められていますが、より広域の地殻変動を示す変化はありません。

この火山活動解説資料は札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※ 資料は気象庁のほか、北海道開発局、北海道大学、北海道及び地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

今回の火山活動解説資料（平成24年4月分）は平成24年5月10日に発表する予定です。

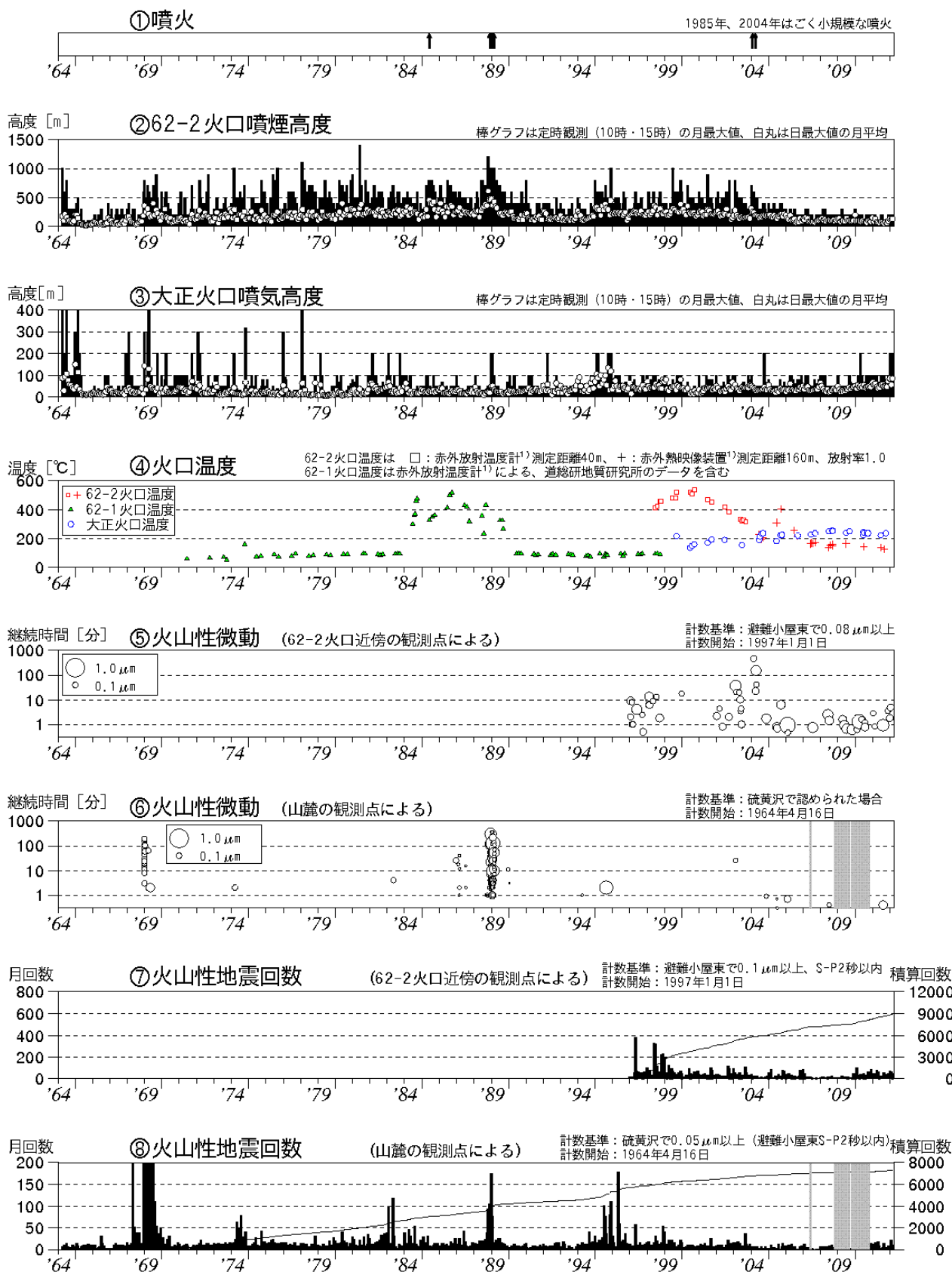


図 1※ 十勝岳 火山活動経過図（1964年 1 月～2012年 3 月）

⑥⑧：灰色の期間は機器障害のため欠測しています

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

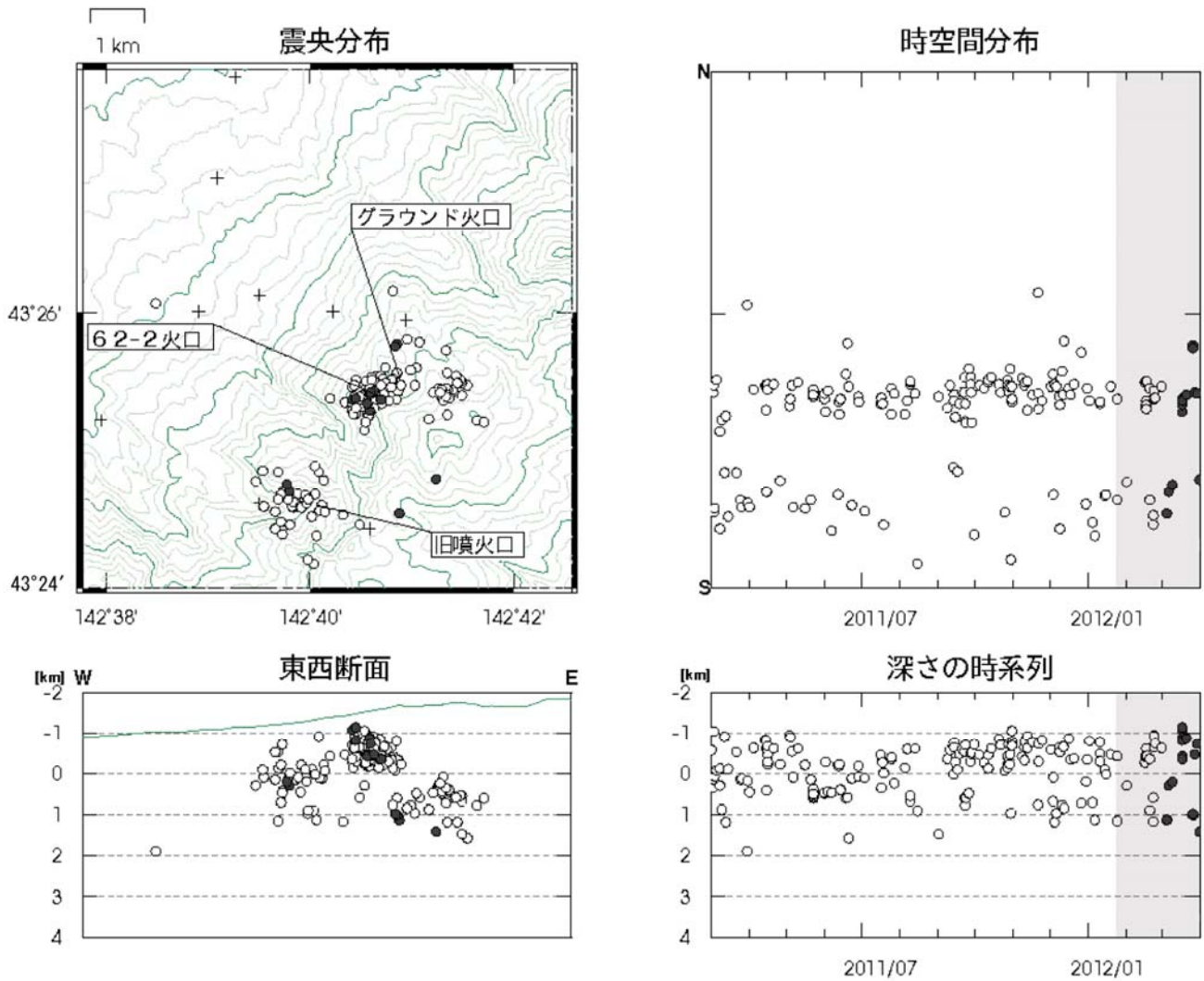


図 2※ 十勝岳 火山性地震の震源分布（2011年3月～2012年3月）
 灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます
 ○印：2011年3月～2012年2月の震源
 ●印：2012年3月の震源

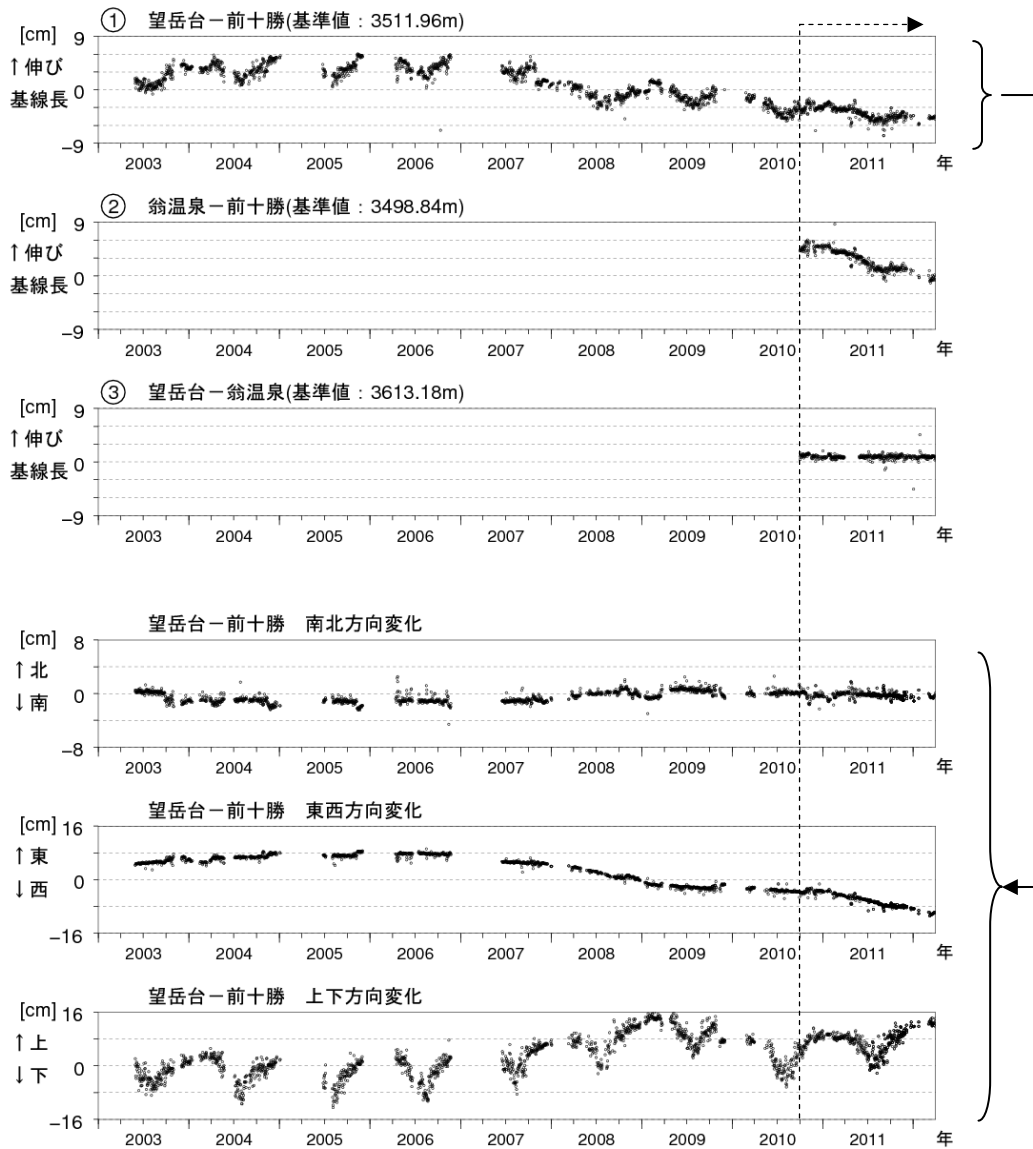


図3※ 十勝岳 GPS連続観測による基線長変化 (2003年1月～2012年3月)
 ・グラフの空白部分は欠測 GPS基線①～③は図4の①～③に対応
 ・4～6段目のグラフは①の3成分変化 (望岳台基準)
 ・2010年10月以降のデータについては、電離層の影響を補正する等、解析方法を改良しています

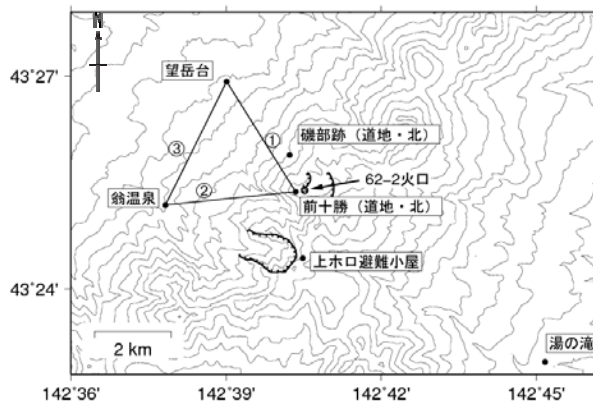


図4 十勝岳 GPS連続観測点配置図
 (北) : 北海道大学
 (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構
 地質研究所



図5 十勝岳 山体北西側の状況 (3月16日、火山観測所遠望カメラによる) 白丸内は62-2火口の噴煙、大正火口の噴気

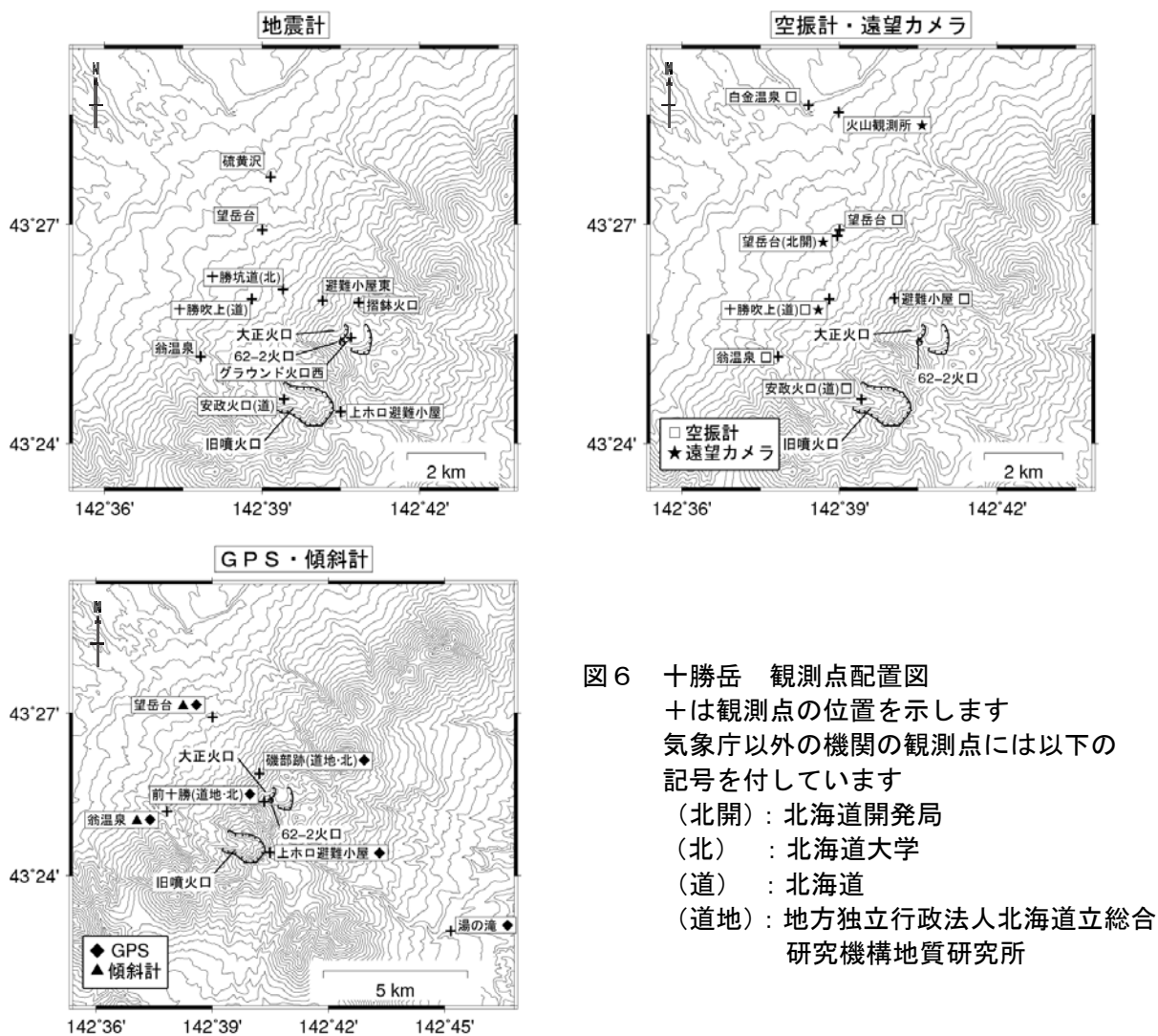


図6 十勝岳 観測点配置図
 +は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています
 (北開)：北海道開発局
 (北)：北海道大学
 (道)：北海道
 (道地)：地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所